

令和6年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和 7年 4月 9日

団体所在地 東広島市黒瀬町丸山 1606-2

団体の名称 学校法人緑ヶ丘幼稚園

職・氏名 理事長 花岡 薫

(施設名 認定こども園みどりがおかようちえん)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

- ・園庭内の春の草花を使った遊び（花かざり、色水など）
- ・さつまいも苗植え

【7月～9月】(夏季)

- ・園庭内での虫取り遊び
- ・草花を使った遊び
- ・水、どろんこあそび
- ・木の実あそび

【10月～12月】(秋季)

- ・園庭内での虫取り遊び
- ・どんぐり拾い
- ・泥ねんど遊び
- ・焼き芋づくり
- ・園庭穴掘り
- ・年少クラス 自然を活かした遠足

【1月～3月】(冬季)

- ・とんど
- ・雪あそび
- ・じゃがいも種いも植え

活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】



春はフェンス外の竹がよく伸びるので、時折ノコギリで切るのだが、その切った竹に子どもたちはいつも強い興味を示す。（竹に限らず、大人が何かやっているのとたいていそうなるのだが）

まだタケノコのような小さな竹や、写真のようにかなり伸びた竹もあり、子どもたちはめいめい皮をむいたり、友だちと二人で運んだりしている。

皮のあるところがざらざら、ぬめぬめしているのを触って「うわー」と言っているところもよく見る。五感を活かして、あまり触れる機会のない自然物と接する体験の機会になっている。

【7月～9月】



7月末、畑で野菜の収穫。

各学年が春先に野菜の種や苗を植え、夏にそれを収穫するのが恒例となっている。

子どもたちは大きく実った野菜を実際にもぎとり、触れることでその感触や色、においを感じる。また、給食委託業者の協力的な姿勢もあり、収穫した野菜は園のキッチンで給食に使用してもらっている。収穫したものを食べるという経験のつながりが生まれる。

【10月～12月】



10月、自然保育アドバイザーを招聘して年少クラスの遠足を実施。

前日にコース（園の畑～そばの池の周り）を担当2名と主任、アドバイザーの原山先生とが一緒に回り、どう楽しめるかを探る。担任と主任だけでは思いつかなかったような自然を使った遊び方をさまざま原山先生が教えてくださり、豊富なプランが作成できた。

そして当日、実際に子どもたちと一緒に出発し、草を使った遊びや、写真のような道のない斜面を登る遊びを実践。普段の園庭でできない、自然環境が豊かな場所ならではの遊びを満喫することができ、子どもたちも新鮮な興奮と喜びを感じているようだった。

【1月～3月】



毎年恒例のとんどを行ったが、今年は趣向を大きく変えた。昨年までは園児から遠巻きに火を焚き、子どもは火に少しの間近づいてアルミホイルに包んだ餅を投げ入れるという形式だったが、今年は写真のように子どもが直接餅やマシュマロを焼くスタイルに。子どもたちも興味を掻き立てられ、火の熱さ、焼けていく具合などを体感することができた。

ただ、写真を見てわかる人はわかると思うが、この長い竹棒も使わないやり方は実は危険であった。はたして竹がはねて子どもの手にあたり、軽いやけどを負うという事態を招いてしまった。

自然を活かし、より子どもたちの直接的な体験を重視していこうという機運の中で、危険性予測の甘さから怪我が発生したというこの出来事は、園においてとても重要な一件であった。機運の中で冷静な危険判断が欠けてしまっていたことは大いに反省すべきことであるし、また、このことを真摯に受け止め、反省して改善につなげ次へ向かえるのかどうかを問われることだったからである。その後の行事反省では行事内での子どもたちの生き活きと楽しむ側面を無視することなく、危険面をしっかりと認識し改善しようという方向で反省が行われた。この行事の一連の実践、怪我、反省の流れが、園の自然保育の実践において大きく意味を持つだろうと感じている。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

10月の年少遠足において、下見を担当と自然保育アドバイザーと一緒にいった。上長からは、事前に担任に「アドバイザーにお任せにならないように、自分で子どもたちに伝えられることを意識してアドバイザーから学んでほしい」ということを伝えた。担任もその意識をもって臨み、新しい知見を得られたのではないと思う。

- ・ 地域との関わりについて

地域との関わりに関しては、冬のとんどにおいて近所から「これもお焚き上げしてほしい」と注連縄を託されるなど、季節行事に関してのやりとりがあった。また、とんどの日には出し物として近隣の老人ホームの職員が紙芝居をやってくださり、子どもたちも大いに喜んでいった。

- ・ 保護者との関わりについて

木材を使った遊具やベンチ作りを保護者有志と一緒にいった。昨年度よりもそうしたことをする空気が自然になっているように感じられる。これからも保護者の園への参加意欲をきちんと掘り上げて、活かしていきたい。

- ・ その他

＊より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

URL	
-----	--